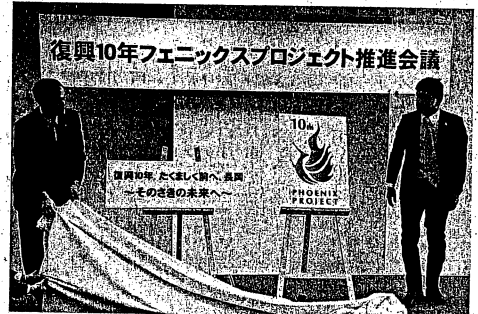


7・13水害と中越地震から10年



共通のロゴマークなどを披露した「復興10年フェニックスプロジェクト推進会議」の初会合=24日、長岡市

行事の共通ロゴ決定

長岡「推進会議」が初会合

7・13水害と中越地震の両市のNPO法人など19団体から10年に合わせ、長岡市が「復興10年フェニックスプロジェクト」の共通ロゴを決定した。

スプロジェクト推進会議をつくり、24日に市内で初会合を開いた。各団体が開催する10年事業に使うキャラクター、フェニックスとロゴマークを決め、一体的な取り組みとしてPRしていく。推進会議は防災や地域活性化、まちづくりといった活動をするNPO法人や住民組織などで構成する。初会合では、震災復興祈願花火の打ち上げや黙とう式、追悼式など40事業を「復興10年フェニックスプロジェクト」に位置付けた。「復興10年」を大きく掲げ、長岡市そのものの未来へ「をキヤッチフレーズ」に掲げ、不死鳥に見立てた炎をロゴに定めた。座長でNPO法人復興支援ネットワーク・フェニックス代表理事の横山が、

ス代表理事の樋口勝博さん(49)は「小さな力でもまとまると大きな力になる。震災10年の中で、その力を大きく花咲かせたい」と力を込めた。

不死鳥ロゴで復興PR

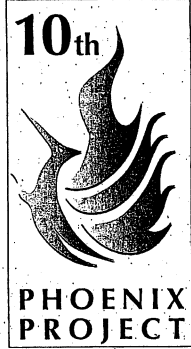
中越地震10年 長岡市など事業連携

2004年の中越地震と市内のまちづくり組織「ク」事業に取組む。や7・13水害から10年を、などが協力して「復興10年」を掲げ、復興10年フェニックスプロジェクトを推進する。大震災の被災地との交流に、共通ロゴやキャラクター



24日には第1回のプロジェクト推進会議を開き、長岡市のシンボルである不死鳥「フェニックス」をかたどったロゴマーク

「復興10年」を大きく掲げ、長岡市そのものの未来へ「をキヤッチフレーズ」に掲げ、不死鳥に見立てた炎をロゴに定めた。座長でNPO法人復興支援ネットワーク・フェニックス代表理事の横山が、



中越地震10年でロゴ

長岡市など 祈念事業会議を発足
中越地震と7・13水害という節目を迎え、復興の発生から今年で10年。復興を全国に発信しようとして、長岡市や復興に取組むNPO団体などが24日、祈念事業フェニックスプロジェクトの推進会議を発足。初会合では事業の統一ロゴマーク写真・同市提供とキヤッチフレーズを決定。各団体が情報共有し、市民が一体となって活動する基本理念を確認した。推進会議には、山古

志地域で復興活動するNPO法人「中越防災フロンティア」など19団体が参加。復興のシンボルである不死鳥をデザインしたロゴマークと、キヤッチフレーズ「復興10年、たくましく前へ、長岡市そのものの未来へ」が発表された。

市によると、祈念事業は平原隆香さんコンサートなど40件を予定している。推進会議の座長で、NPO法人「復興支援ネットワーク・フェニックス」の樋口勝博代表理事は「10年先のまちづくりを見据えた活動にしたい」と話した。【復興10年】

中越復興10年 ロゴ発表

フェニックスプロジェクト初会合



中越地震や7・13水害の復興に取組んできた団体と長岡市による復興10年の祈念事業「フェニックスプロジェクト」の初会合が24日、長岡市で開かれ、その「不死鳥」をモチーフにした「復興10年、たくましく前へ、長岡市そのものの未来へ」と決まった。基本理念として、犠牲者への「追悼」、全国からの支援に対する感謝、経験と教訓の「伝承」、復興した姿の全国への「発信」の4点が掲げられた。座長を務めるNPO法人「復興支援ネットワーク・フェニックス」の樋口勝博代表理事は「この1年で終わりはなく、次の10年を見据えて全国に情報発信し、東日本大震災の被災地にエールを送りたい」と語った。